子育てかわら版 第17号

園長だより１３７号復刻

過去の園長だよりです

平成２０年１月１８日発行

コミュニケーションは言葉の前にスキンシップから

原人からいろいろな人種が生まれ、そして消えていきました。その中でホモサピエンスだけが、うまく環境に順応してわれわれ人類の祖先となりました。ホモサピエンスとほとんど同じ時期に同じような発達をしたネアンデルタール人は絶滅してしまいました。ホモサピエンスとネアンデルタール人の違いはほとんど無く、ただホモサピエンスの方が声帯の位置がわずか下にあっただけと言われています。そのわずか下にあることによって口腔をうまく反響に使って複雑な言葉によるコミュニケーションを発達させたことが絶滅を免れたと言われています。

18世紀、プロイセンの皇帝フリードリッヒ二世が、人間の赤ちゃんは親が言葉を教えなかったら一体何語をしゃべるのだろうかということに興味を持ち、数人の赤ん坊を一箇所に集め、食事を与えたり、寝かせたりという世話はしていいけれども、決して言葉をかけてはいけないという実験をしました。この実験は悲惨にも、2年間の間に、子供が全部死んでしまうという結果になりました。

このことは何を意味するかというと、食べ物を与えることはもちろん重要だけれど、それだけでは人間の子は育てられないということです。赤ちゃんのときに意味が分かろうが分かるまいが、動物の毛づくろいと同じトーンで話しかけることが必要だということです。

動物の自立とはどういうことかというと、1. 食物を獲得する。2. 危険から身を守る。3. 仲間とコミュニケーションをとる。の三つと言われていますが最近の若者の中で、このコミュニケーション能力が極めて劣ってきているように思います。引きこもり、ストーカー、幼児誘拐、など極端な例はもとより、いじめによる自殺も、死にたくなるほどつらい思いをしているのに、それを誰にも打ち明けられないと言うのはコミュニケーションの基礎ができていないのではないかと思います。コミュニケーション能力を身につけるには、

1. **子供が分かろうが分かるまいが、言葉のシャワーを浴びせてあげること。**
   これによって母国語を知り、言葉を覚え、言葉を聴く力がつきます。
2. **子供の言おうとしていることを汲み取って「こういうことを言いたいのかい」と代弁してあげること。**
   そうすることによって、「こういう気持ちのとき、あるいは状況のときはこのように言うのか」ということが分かるのと同時に、「うん」、とか「いいや」と言う程度で、意思を通じ合えることが出来るので、コミュニケーションの喜びを感じることが出来ます。
3. **応答的な言葉がけをする。** 簡単な質問をすることによって意思の伝達を経験する。
4. **子供同士で遊びあって、**実際に自分の力で簡単なコミュニケーションをとる。

このような手順をたどりますが、**これ以上に大切なことは皮膚接触によるコミュニケーションをたっぷりとしておくことだと思います。**

スキンシップによって人間の信頼感や親密感が養われます。これがなければ言葉を覚えたとしてもコミュニケーションは成り立ちません。

イヌイット（エスキモー）は赤ん坊が生まれるとすぐに母親の背中におんぶされます。赤ん坊はトナカイの皮で出来たオムツをしている他は裸で、お腹は母親の背中と直接くっついているそうです。イヌイットの赤ん坊はほとんど泣く事がないそうですが、それは母親が皮膚を通して直接背中の赤ん坊の欲求を知るからだといわれています。肌を通してのコミュニケーションというのは想像以上に大きな力を持っているのだと思います。というのは、肌は発生学的には脳や中枢神経系と同じく外肺葉から出来ているそうで、その広い面積で外界からの刺激を知覚し、視覚などと違って、直接的に脳へ信号を送るそうです。そういうことを考えると 肌によるコミュニケーション能力というのは大きな力があることもうなずけます。

また、学生を対象とした調査で子供のときにスキンシップをたくさん受けた人は、人から体にタッチされたとき『激励』とか、『親しみ』というプラスのメッセージとして受け取り、逆にスキンシップの少なかった人は『緊張』を感じると言われています。